

## 〔 編 集 後 記 〕

千葉医学雑誌第92巻3号をお届けします。本号では高橋和久教授による最終講義、石多猛志先生、岡野美々先生、玉木雅子先生による症例報告、門平忠之先生の海外だより、整形外科例会、神経内科例会そして萩原義信先生によるOriginal paperが掲載されています。

高橋教授による最終講義は10ページに及ぶ大作で、千葉大学整形外科教室の歴史が興味深く述べられています。

門平先生による海外だよりはアメリカ合衆国内の研究所を2か所移動し、虚血性心疾患における冠動脈イメージングの臨床研究を、周囲の研究者との交流も含めて生き生きと語っています。

症例報告は石多先生らによる「腹腔鏡下修復術を施行した遅発型ポートサイトヘルニアの1例」、岡野先生らによる「5-FUに起因する高アンモニア血症から意識障害を来した再発大腸癌の1例」、玉木先生らによる「腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術における内鼠径ヘルニアの術後漿液腫発生予防の工夫をした1例」であり、それぞれ力作です。

整形外科例会、神経内科例会の発表からは臨床研究の活発な姿勢が伺えます。

Original paperは萩原義信先生らによる「腰椎椎間板ヘルニアに対する神経根ブロック施行時にステロイド剤は必要か」であり、即応用可能な研究です。

以上、本号もバラエティーに富んだ興味深い内容を網羅しています。是非ご一読下さい。

千葉医学会はこの様に盛況を呈し、医学上も種々の発見や発展があり、将来的には明るい未来が待ち受けていると思われませんが、政治的、経済的には混迷の度合いを増しています。日本国内の

みならず、世界は不安定要素に満ち溢れ、将来の展望が見通せない閉塞的な状況です。

一方、医学分野以外にも科学分野、特に物理学、天文学分野では本年2月に非常に重要な発表がありました。レーザー干渉計LIGOによって重力波が検出されたのです。重力波はアインシュタインの一般相対性理論から予想されており、1960年代にも検出の報告がありましたが、当時の実験精度では不可能であったと現在では考えられていました。今回の検出はたまたま大きなブラックホールの連星が合体し、膨大な量の重力波が放出されたことによるものですが、合体の規模に違いがあれ、全銀河を見渡せば決して稀な現象ではないと考えられています。検出の精度さえ上がれば、ほとんど毎日重力波が検出され、更に精度が格段に上昇すれば、地球上で発生する重力波さえ検出出来る可能性があります。現時点で重力波の応用については想像の域を超えていますが、現代文明に必要な不可欠である電磁波さえ、発見された当時はその応用について懐疑的でした。近年ダークマターの本体であると考えられているヒッグス粒子も検出されています。自然科学の分野では21世紀に入り、以上の様に重要な発見が相次ぎ、明るい未来が約束されているようです。

世界的な閉塞状態にある今こそ、科学技術を駆使して窮状を打開するべきであり、また可能であると考えます。

種々の細事に囚われておりますが、明るい未来を期待し、日々の医療に真摯に取り組んでいきたいと願っております。

(編集委員 龍岡穂積)